

アベノミクスと日本円の下落

みなさん、こんにちは！

私は今日、最近の円安と日本首相のアベノミクスと呼ばれる政策について話そうと思います。本当はグラフなどを見せて話したかったんですが、4分ではやはり時間が足りないと気づきました。さらに、経済学的な小難しい話をすると、退屈で眠くなってしまうので、かわりにビールを例にして話したいと思います。

私が日本に留学していたころと比べて、今はノルウェークローネで日本のビールの値段は20%安くなりました。その結果、私は以前5杯しか飲めなかったお金で、6杯も飲めます。日本では飲み放題もあるので、あまり良い例ではないかもしれませんが、やはりここにいる日本に行きたい皆さんにとって、円相場がどうなるのかは大きな問題だと思います。

この例は最近の円安の重大さを表していますが、今日はビールと日本円だけの話をするのではなく、もっと幅広く日本の政治と経済の話をしたいです。4分でできる限り。

ノルウェーに住んでいると、残念ながら日本がニュースに出てくるのはとても稀です。しかし最近、特に自民党が政権復帰した昨年からは、ノルウェーでも日本のニュースを見る機会が多くなりました。たとえば

「円の下落が続く」

「世界中の通貨戦争が懸念される」

「G20で通貨戦争が争点に」

「日本の通貨戦争への警告」

などの見出しがありました。

通貨戦争ほどの強い表現を用いるようになった背景は何でしょうか。最近の円安は、日本首相安倍しんぞうのアベノミクスと呼ばれる政策のおかげだとよく言われます。（韓国やブラジルから見たらアベノミクスのせいだと言うかもしれませんが）しかし、私はそうは思いません。アベノミクスは進みすぎた円高を止める糸口を探していた円相場にとって、ちょうどいいきっかけであったにすぎないのです。

しかしアベノミクスとはいったいなんなのでしょう？まずは以前の自民党と同じような、公共支出を増やす政策があります。さらに日銀に対して重圧を与え、デフレーションを金融政策でおさえようという対策もあります。インフレーションが少しあるのは基本的にいいことですが、それに対して、物価が上がるのに慣れていない日本人は急に値段が上がったらどうするのでしょうか。ノルウェーに住んでると当たり前だと思いますが、以前、定期券の値段が急に上がったことに対して文句を言っていた日本人の留学生に毎年上がるよと言ったら、とてもびっくりしていました。インフレが消費者を節約志向にして、出費をおさえさせてしまうなら、日本の経済活動にとって逆効果です。

私は、アベノミクスは大きな政策の変更ではないと思います。しかしアベノミクスで最も重要なことは、人々がもう一度将来に期待するきっかけとなるか、という点です。この先の未来が何をしていても変わらない気持ちであきらめるのではなく、頑張ったらより良い将来が拓けるのではないかと信じるだけで、必ずいい効果が出るんだと思います。